



ひよこ組での生活も、あと2ヶ月をきりました。入園当時と比べて素晴らしい成長を見せてくれている子ども達。体調管理やインフルエンザなどの予防に気を配りながら1日1日を大切に、今月も思いっきり楽しんで過ごしたいと思います！

～遊びは学び！～



先月号の最後に子どもたちにとって『遊び＝学び』と書かせていただきました。今月は遊びの中から『積み木』の部分にフォーカスを当てて、遊びの中でどんなことを学んでいるのか、もう少し詳しくお伝えしたいと思います。

①手指のコントロールが育つ

積み木を積んだり崩したりする際に、子どもたちは指先を使って、押したりつかんだりしています。この動作を繰り返すことで、手先の器用さが鍛えられます。また、どのくらいの力を加えたら積み木が崩れるのかを体験することで、力加減の調整も学ぶことができます。こういった経験は、ボールを投げるときや鉛筆を持つときにも役立ちます。

②想像力や創造力が伸びる

積み木が崩れたときに子どもたちは「どうしたらもう一度積めるのかな？」と試行錯誤を始めます。この過程の中で、子どもたちは想像力を働かせながら新しい形を作る工夫をするようになっていきます。例えば「次はもっと高く積んでみよう」「違う形にしたらどうなるかな？」といった発想が生まれ、創造力も育まれていきます。



③色の認識や数の基礎を育む

積み木は主に三原色（赤・青・黄）の物を使用しています。「これは赤い積み木だね」「黄色い積み木はどこかな？」など声を掛けることで子どもたちの色の学びに繋がっています。また、積んだ個数を大人がゆっくり指を差しながら数えることで『数』も学べるように声掛けをしています。最近では子どもたちの方から色を伝えてくれたり、大人が数を数え始めると声を出して一緒に数えようとしたりする姿も出てきています。

④感情のコントロールを学ぶ

積み木が崩れることで子どもたちは『思い通りにならない経験』をします。最初は悔しさを感じるかもしれませんが「もう一度やってみよう！」と挑戦を続けることで、粘り強さや自己肯定感が育ちます。

また、崩れる瞬間を楽しむことでストレス発散にも繋がり、崩れることや崩すことの楽しさを感じながら、遊びを通じて感情の調整力を身につけていきます。

このように積み木だけでなく様々な遊び、そして大人や友達との関りの中から、子どもたちはたくさんの学びや経験を得て日々成長していきます。ご家庭でもぜひ、お子さんの行動や表情に注目しながら遊びを見守ってみてください♪

